

中海は宝物

未来守りネットワーク活動記

<13>

前回に続き、中海の浅場について書くつもりでしたが、先日、匿名の読者の方から「中海干拓事業は善か悪か」という問い合わせがありました。ここで私なりの考えを述べたいと思います。

中海干拓事業を振り返ってみると、当時、国や鳥取、島根両県にとって重要な公共事業の一つだったと思っています。

長い年月をかけ、事業の工事に携わった多くの関係者がいらっしやいました。特に中四国農政局の関係者の皆さんは、農業の合理化を図り、安定した農業経営と国内への食料供給を使命と考え、取り組まれたことと思います。私たちは、そ

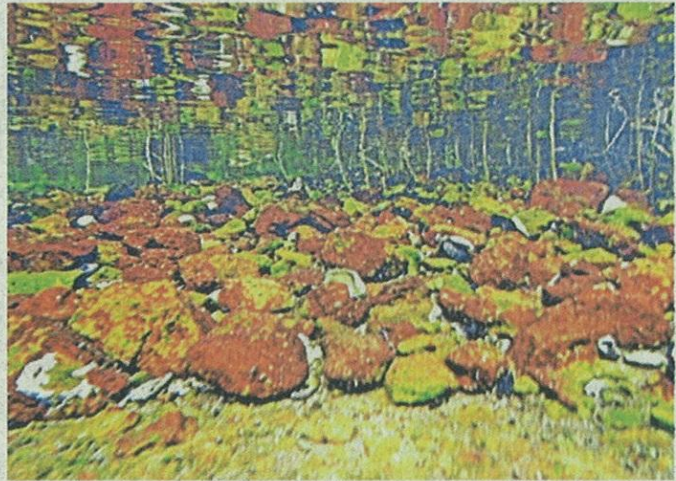
干拓事業の是非

の職員の皆さんがいたことを忘れてはいけないと思っています。

干拓開始から多くの人や物、金を費やしたこの事業は、時代の流れに翻弄(ほんろう)され、夢とともに消えたのではないだろうか。干拓事業は悪で、やらなければ中海の自然環境は破壊されなかつたと批判する人がいます。確かに干拓

工事の影響を否定しませぬ。

しかし、生活環境が向上するとともに、生活排水や農業排水などが中海に流入して環境を破壊する可能性はあったと思います。



安来市内の中海湖底の石を赤く染めた紅藻類タンスイベニマダラ。水質が良好なことを示している

インフラ面など恩恵も

干拓事業により、大根島、江島をはじめ多くの地域でインフラ整備なども行われ、何十年と雇用の創出や生活環境の向上などに寄与したと感じているのは私だけでしょうか。

事業が中止され、水門撤去や森山堤防開削に伴い中海の自然環境は変化している。多くの住民や企業、行政、大学、NPO法人などが中海再生に取り組んでいることは、素晴らしいこと

とです。中海は各地域や水域で環境問題が違いため、地域連携による問題解決や提案が重要となります。そう提唱して組織されたのが、自然再生協議会です。協議会は定期的に会議や報告会などを開催しています。

中心的役割を担っているのはNPO法人・自然再生センターです。島根大学の徳岡隆夫名誉教授を中心に専門的な知識を持った組織です。中海の自然環境は毎年、いや毎月違います。行政ではできない息の長い調査などが必要なのです。私は、その役目を自然再生センターが担うのが中海再生の早道と考えています。

地域の宝である、この中海が優しくほほ笑むよう、息の長い協力を皆さんにもお願いしたいと思います。(未来守りネットワーク理事長・奥森隆夫)